

事業所名

サザンWinG

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

2024年

10月

1日

法人（事業所）理念	こどもたちが 1. いきいき暮らす 2. のびのび育つ 3. きらきら輝く ことを目指します						
支援方針	理念や、共感的需要と交流を柱とした独自アプローチ「Tsubameアプローチ」（哲学的認識論）を礎とし、それを基礎に各種講座や集団のセッション、個別支援を実施し、5領域全般にわたる成長を促進する。感動や共鳴を生む「時空の間」の創生、心をコントロールする力をはぐくむことを療育の中心に据え、個と共同性の精神発達を促していく。						
営業時間	9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	通所時の体温などの管理。連絡帳やメールなどをとおして保護者と連携して心と体の健康を保てるように支援していく。綿密な感染対策を実施する。講座では「体をつかった遊び」やヨガ教室やリズム体操を実施している。通所時の荷物のかたづけなど身辺の自立を促し、事業所での療育の流れにスムーズにはいるように支援していく。					
	運動・感覚	粗大運動（ゲームや体操）や微細運動（折り紙などの創作活動）を小集団活動や個別支援で支援していく。個別支援でも集団のセッションでも、精神発達のベースとなる周囲の実在世界の理解及びその中の自己認識が果たせるように感覚、情動、関心の共有を重要視している。開設以来、感覚統合の実践を積み重ねている。					
	認知・行動	通所後宿題を個別指導している。教科の指導にかかわらず活動全般にわたって集団への適応が主体的に図れるように環境を整えている。集団の中で自己認識ができるように感覚、情動、関心の共有を促している。ゲームなどの集団セッションではルールの徹底やルールの変更にも対応できる（こころをコントロールする力をつけていく）様に支援していく。					
	言語 コミュニケーション	個別支援でも集団のセッションでも、精神発達のベースとなる周囲の実在世界の理解及びその中の自己認識が果たせるように感覚、情動、関心の共有を重要視している。活動全般にわたって丁寧な会話を心掛けている。また始めの会や終りの会でのホワイトボードなどを利用した点呼や言葉のやり取りで、文字の取得や言語の発達を促している。言語や文字の取得が他の分野での成長につながっていることを認識して取り組みを進めている。					
	人間関係 社会性	小集団でのセッションは毎日講座など何らかのプログラムを実施している。精神発達のベースとなる周囲の実在世界の理解及びその中の自己認識が果たせるように感覚、情動、関心の共有を重要視している。個と共同性の精神発達を促進するため、療育者の言葉掛けや支援を認識論で構成主義として採用。「私は私、私は私たち」という周囲との共同性を促して人間関係や社会性を培っていく。					
家族支援		連絡帳、メール、半期ごとのアセスメント、面談等を通じて支援の方向性を整えていく。	移行支援	学童保育、地域など同年代のこどもたちとの学びの場に戻していくために連携していく。家庭に戻していく支援もしている。小学校高学年以上になると法人内の闘竜舎に移行支援している。			
地域支援・地域連携		地域自立支援協議会に積極的に参加しメゾクラスの提言を行っている。また個別の課題ではケース会議や情報の共有で話し合いをすすめている。	職員の質の向上	「Tsubameアプローチ」を中心に毎月一度は職員会議などで職場内研修を進めている。また外部講師を招へいしたり、外部研修を受けて資質が向上できるようにしている。			
主な行事等		クリスマス季節ごとの行事を積極的に推進。（固有の時間軸による自己認識を進めるため）。夏休みには学校関係者も招待し、保護者や近所の人たちと一緒に夏祭りをしている。					